令和6年度　岩手大学教育学部附属中学校　国語科研究主題（第16期研究1年次）

「ことばの力」を吟味して探究の文脈で発揮する生徒の育成

〇三上　潤也、小原　紳、鈴木　駿

1　研究主題設定の理由

AI の台頭や「より VUCA な時代」の到来といった急激な社会変化の中を生き抜くためには、学習者自らが文脈に応じて「ことばの力」（資質・能力）を吟味しながら運用していく必要がある。その力は、日々の学習の中で探究的な学びの場に身を置きながら、学習者自身がどの資質・能力を使うか選択したり、方略が有効であるかメタ認知したりする学習経験によって育むことができると考える。既有の資質・能力を活用し、協働的な学びの中でより高次な学習経験を繰り返すことで生徒に確かな「ことばの力」を育成し、獲得した力を実生活の文脈で発揮できる生徒を育成したい。

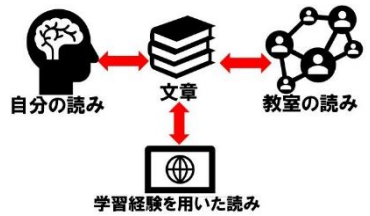
2　国語科で育成を目指す「ことばの力」（資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
〇状況や文脈に応じて適切に言葉を使い、情報を検討したり整理したりする力〔知識及び技能〕(1)(2) 〇言語文化に親しみをもちながら、自らの言語生活を振り返ったり豊かにしたりする力〔知識及び技能〕(3)	〇批判的に言葉を検討しながら、状況や文脈に応じて論理的に考えたり表現したりする力 〇様々な視点で言葉に着目したり適切さや美醜を検討したりすることを繰り返して、自分の思いや考えを深める力	〇言葉の価値を探るために、自ら探究の文脈を設定しながら課題解決に向けて見通しをもつ力 〇「ことばの力」を自ら選択しようとしたり、反省的態度で探究の過程を振り返ったりする力 〇テクストや他者との対話を通じて自己の考えを深めようとする力

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』では「言葉による見方・考え方を働かせる」ことについて「改めて言葉に着目して吟味する」と示されている。状況や文脈の中で言葉の適切さや美醜を検討し、身に付けた力を実生活の文脈の中で自在に活用できる生徒の育成を本研究の柱にしたい。（探究の文脈の中で運用する「ことばの力」を自己選択する態度、自らの探究過程を意識的、批判的に吟味する姿勢として「反省的態度」という文言を使用している。）
※「反省的態度」について引用：酒井雅子（2023）『国語科授業で実現する「探究」』明治図書出版

3　研究内容

視点①　個別最適な学びと協働的な学び



文学における探究学習では自己の読みと他者の読みの交流を通して、より高次な読みを獲得させたい。根拠を明確にしながら考えをまとめる時間を充分に保障した上で、言葉への着目を大切にしながら、批判的に自己の考えを形成させる。単元の中で個人が追究したい「個人課題」を選択させ、それらの「個人課題」が組み合わさり、より高次な学びとなるように単元をデザインする。また、第三次でどのような表現方法を用いるか選択させ、学びを自らデザインさせたい。

学習者は、単元の学びと既有の学習経験との往還を通して、より確からしい結論に進んでいけると考える。学習者が学習の対象となる「経験」や「既習事項」にクラウド上でいつでもアクセスできる環境を整え、ICT により主体的な学びが促進されるよう工夫する。

協働的な学びの場面では、議論を通して批判的に自己の考えを検討する過程を大切にする。議論の際は立場の違いや考えのズレを意識して、根拠や推論について質問したり、考えを論理的に説明したりすることを意識させたい。

視点②　探究過程の振り返り

単元シートを用いて自らの学びをデザインさせる。1単位時間の振り返りはもちろん、ゴールの見通しや学びを進める中で分からなくなったこと、次時の予想などを記録する。自己の学びの方向性が適切かつ定期的に振り返ることで選択した「ことばの力」や探究の推論は適切かメタ認知を促す。獲得した力を実生活の文脈で発揮できる生徒の育成を目指す。